

多項目自動血球分析装置 XN シリーズを用いた体腔液検査

～特に異型細胞検出について～

◎林 晃司¹⁾、粥川 嵩大¹⁾、水谷 保彦¹⁾、加藤 公明¹⁾
岐阜赤十字病院¹⁾

【はじめに】

近年、体液測定機能を有する血球分析装置を複数のメーカーが上市され、各施設で測定されている。しかし、体腔液中の多様な有形成分を全てカバーしているわけではないため、そのデータの解釈には留意が必要である。当院では、2016年1月より XN シリーズ(以下 XN)の BF モードを用いて体腔液検査を実施しているが、その中で異型細胞について若干の知見を得たので報告する。

【運用方法】

検体到着後、XN にて細胞数を測定する。ドレナージ検体やスキッタグラムに異常があれば、サムソン染色にて再検を行う。また、残検体を遠心後、引きガラス法にて塗抹標本を作製する。メイ・ギムザ染色後、細胞分類を行い、異型細胞や細菌の有無の確認を行う。

【症例 1】

70 才代、女性。検体：胸水。有核細胞数：892u/L、HF-BF：578u/L であった。塗抹検査にて N/C 比が大きく、腺腔様構造を示す異型細胞が 92.4%認められた。スキッタグラムの HF-BF 領域では、プロットが側方散乱光 (SSC) と側方蛍光

(SFL)の両方に広く分布し、特に SFL の上部まで強く強度を示した。細胞診結果は、ClassV(腺癌)であった。

【症例 2】

60 才代、女性。検体：腹水。有核細胞数：433u/L、HF-BF：7u/L であった。塗抹検査にて核が偏在し、細胞質に大小不同の空胞がみられる異型細胞が 0.6%認められた。HF-BF 領域のプロットは多くなかったが、SFL の上部まで分布していた。細胞診結果は、ClassV(腺癌)であった。

【症例 3】

60 才代、男性。検体：胸水。有核細胞数：8,311u/L、HF-BF：965u/L であった。塗抹検査にて N/C 比が大きく、核形不整な異型細胞が 94.4%認められた。スキッタグラムのプロットがリンパ球領域から HF-BF 領域の中間部までにかけて強度を認めた。細胞診結果は、ClassV(悪性リンパ腫)であった。

【症例 4】

30 才代、男性。検体：心嚢水。有核細胞数：2,034u/L、HF-BF：406u/L であった。塗抹検査にてロゼット様配列を示す小型類円形の異型細胞が 22.4%、中皮細胞と組織球が計 60.2%認められた。スキッタグラムのプロットが SSC と SFL の両方に広く分布し、HF-BF 領域の中間部に強度を認めた。細胞診結果は、ClassV(ユーイング肉腫)であった。

【結果】

異型細胞の種類によって異なるスキッタグラムを示した。また、HF-BF 数が少なくても異型細胞が出現する事があった。いずれも塗抹標本による確認が必要であった。

【まとめ】

自動分析装置のスキッタグラムを注意深く観察する事で、異型細胞の検出向上につながると思われた。

連絡先 058-231-2266 (2201)